

次号予告

特集 国際分散投資

- 国際分散投資の成功条件をさぐる
……………阿部正樹(ファースト・ポストン)
外国証券投資と為替リスク
……………浅野幸弘(住友信託銀行)
為替リスクと証券投資リスクの「乗法」効果：
国際分散投資における意味について
……………森平爽一郎(福島大学)
国際分散投資とカントリーリスク
……………住田友文(日本開発銀行)
生命保険会社における海外投融資について
……………佐々木 仁(第一生命)
国際分散投資の理論と現実
……………岸本光永(日本金融システム研究所)
連載講座 ファイナンスのための確率過程入門(2)
……………岸本一男(筑波大学)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

- 委員長 高森 寛 青山学院大学
副委員長 高井 英造 三菱石油㈱
委 員 相沢りえ子 ㈱構造計画研究所
上野 哲郎 関東学園大学
大村 雄史 住友商事㈱
片山 隆仁 防衛庁
川合 庸一 川合産業研究事務所
川野幸三郎 日本ユニカー㈱
木嶋 恭一 東京工業大学
新村 秀一 住商コンピューターサー
ビス㈱
町原 文明 日本電信電話㈱
宮田 雅智 青山学院女子短期大学
矢部 博 東京理科大学

編集後記 ●本号では特集テーマを「DSSにおけるORとAIの利用」として、DSSとORの関係がいろいろな側面から論じられています。ORを、広い意味での意思決定を支援する科学的方法論の体系と理解すれば、意思決定のための圧倒的な量の情報を、洗練された形で意思決定者にフレンドリーな形で提供しようとするDSSの研究は、OR研究の中でこれからますます重要性を増してくるのは当然といえるでしょう。その意味で、今回の特集が一つのきっかけになればと期待しております。

●最近、代替案の選択という狭い意味での「問題解決」のためではなく、Ackoff がいうところのいわゆるメッシーな(messy)決定や問題状況を「構造化する」ための方法が多く提案されています。従来のモデル化の手法のように、それらの方法論のなかから対話によって最も適当なものを引き出し、コンピュータ上で展開してゆくシステムの開発が当然考えられます。これについても実

現化の努力が実際に行なわれているようで、今後の発展が楽しみです。

●今年度の春の研究発表会に先立って5月18日に行なわれた、第23回シンポジウム「進展する情報ネットワークの有効利用とその展望」にオーガナイザーとして関与する機会に恵まれました。最近ではテレビコマーシャルにも登場するSIS(戦略的情報システム)をはじめさまざまな情報ネットワークが取り上げられましたが、現実の情報ネットワークの展開のスピードに改めて圧倒されてしまいました。われわれとしては、人脈の形成からハードウェアの連結まで広い範囲をカバーするネットワークの考え方の裏にある概念を見きわめ整理し、それにもとづき情報ネットワークを理解するシャープな切り口を考えてゆこうと考えています。

(木嶋 恭一)

本誌に記載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成2年6月号 第35巻 第6号 通巻354号

代表者 森村 英典

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
電話 03-815-3351(代) FAX 03-815-3352 〒113

編集人 高森 寛

発行所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご文法は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 950円(本体922円, 郵送料含)年間予約購読料10,800円(税・郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(546-1337)、日経弘報社(563-2241)へ